

2021年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492601909	事業の開始年月日	令和3年4月1日
		指定年月日	令和3年4月1日
法人名	株式会社ハートライフケア		
事業所名	グループホームゆらり相模原		
所在地	(252-0135) 神奈川県相模原市緑区大島3246		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和4年2月4日	評価結果 市町村受理日	令和4年5月6日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

もう一つの我が家で心穏やかに暮らす。思いやりの心、いたわりの心、「心と心」の結びつきは、幸せな生活を支える基本です。ゆらり相模原では、明るく家庭的な雰囲気の中で、今までと変わらない生活と、自立の喜びを支援いたします。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年3月7日	評価機関 評価決定日	令和4年4月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所はJR横浜線、京王相模原線の「橋本」駅からバスで約14分、終点「上大島」バス停から徒歩10分ほどのところにある木造2階建てのグループホームです。周りは畑や住宅があり、近くには相模川自然の村公園もある自然豊かな環境です。

<優れている点>

理念の「ありのままの状態を受け入れ、常に利用者様、中心の生活を継続する」を大切に支援しています。日中はフロアや玄関の鍵はかけずに過ごしています。自由に外に出ていく利用者を、後ろからそっと付き添い、タイミングを見計らって声掛けし一緒に事業所に戻る事や、BPSD（行動、心理症状）等の症状が現れた場合にも理念の「あるがままの状況を受け入れ」をモットーに支援しています。コロナ禍前は、恒例行事で中禅寺湖や三島スカイラインなど年2回の日帰りバス旅行などに出かけ、その時の思い出の写真がリビングに飾ってあります。キッチンと食堂兼リビングはフルオープンで一体となっており、調理の音や匂いが直接伝わり、家庭と同じ感覚で過ごすことができます。居室はフローリングの洋室タイプと畳の和室タイプの2種類を用意し落ち着いた雰囲気の居室となっています。

<工夫点>

事業所のスマートフォンを活用して、日々の申し送りやバイタルチェック項目などを効率的に記録し、支援に活用しています。1階のリビングにつながったウッドデッキでは、お茶会や歌のレクリエーション、日光浴、高校生の吹奏楽演奏などを楽しむ交流の場として活用しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームゆらり相模原
ユニット名	1階ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「ありのままの状態を受け入れ、常に利用者様、中心の生活を継続する」を共有する為に毎回の全体・各ユニット会議で話題にし、利用者様目線で暮らせるようにサポートしている。	事業所の理念は1年前に職員の意見を聞き管理者と主任がまとめています。管理者は全体会議やユニット会議など機会を捉えて職員に話をし、意識するようにしています。利用者にBPSD等の症状が現れた場合も理念の「あるがままの状態を受け入れ」支援します。	管理者は会議で理念の話をして職員の意識を高めています。玄関入り口や事務所など目に触れる場所にも掲示して、さらに意識を高めることが期待されます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍の為、中止している。	自治会に加入しています。コロナ禍前は自治会長の声掛けにより「どんど焼き」に参加しています。事業所のゆりり祭りや花火大会にも近隣の住民が子ども連れで来訪しています。中学生の職場体験や高校の吹奏楽団の演奏も受け入れています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	毎年、高校の福祉課の実習生を受け入れ、支援の方法等をアドバイスしていますがコロナ禍の為、中止している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍で中止しているが、活動報告は地域包括支援センターに行っている。	コロナ禍前は年6回自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員が参加し開催して事業所の状況を伝えていますが、コロナ禍で現在は休止していますが、地域との繋がりを大切にするため地域包括支援センター職員と相談し12月より文書会議で再開しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	コロナ禍で密にはないが、その都度、状況を説明している。	コロナ禍前は、運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加しています。今は会議再開後について相談などを通じて連携しています。生活保護利用者の生活状況について生活支援課のケースワーカーとも連携しています。行政主催の講習会にも参加しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	施設はしていません。また社内（事業所）研修を年4回開催し、常に意識しを促している。	「身体拘束（各ユニットで使われている言葉は大丈夫？）」などの内部研修を年4回開催し、ユニット会議でも話し合い、意識を高めています。例えば「食事の時にこぼしたものの受けとしてエプロンの端を食器盆の下に敷くことは虐待になるのか」など、日頃の支援の仕方についても職員同士で話し合いをしています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	社内（事業所）研修を年4回開催し、常に意識を促している。また、研修の際にアンケート（無記名）を実施し、結果を公表している。	「高齢者の虐待について」の内部研修を年4回、劇による勉強会を年2回、虐待の芽チェックリストを年3回行っています。利用者を人生の先輩として敬意を払った言葉遣いに留意しています。虐待発見時の対応方法は職員に周知しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要に応じ関係者と電話や封書で連絡しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時、利用契約書、重要事項説明書、運営規定をすべて読み上げ説明し、同意後に署名、捺印を頂いています。また、契約後にも、分からないことや不明な点は、その都度説明している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時や電話等で確認しています。年1回の外部評価でのアンケートも参考にしています。	家族の意見などを事業所の行事の参加時に聞いていましたが、コロナ禍の現在は面会時や電話などで聞いています。家族から「コロナワクチン接種」や「昼寝が習慣の利用者に電話する時間帯について」などの問合せがあり、改善に向けた事例もあります。毎月、利用者の生活の様子を写した写真を載せた「悠花里」も送っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月、本部職員を交えた運営会議、各ユニット会議、不定期開催の全体会議を開催し、職員から意見を聞く機会を設けています。また、介護部主催の各職員とのヒヤリングで意見を聞きます。	職員からの意見を、ユニット会議の中や、朝夕の打ち合わせ、事業所のスマートフォンを使用した申し送り時など、いつでも把握できる体制を整えています。主任の判断による支援方法や、活動についての相談など、支援の改善に繋げています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課表を用いて、自己評価し、自身の課題設定に活かしてもらいます。また、適宜、管理者と面談を行える環境を整えています。法人では年2回の社員登用制度を開催します。	管理者は職員と年1回個人面談を行い、職場に関する要望や将来への希望、資格取得について話し合いをしています。職員が工夫した支援を行ったときは、労いの言葉をかけるように心掛け、活気のある職場になるように努めています。職員から休暇や勤務について要望があったときは柔軟に対応しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人主催の基礎研修を毎月開催しています。事業所でも個別で小研修（同じ内容を複数回に分けて）を行います。また、業務扱いで外部研修の初任者研修、実務者研修等に参加してもらっています。	管理者は年1回の個人面談などで資格取得について相談にのったり、取得を勧めています。外部研修は業務扱いで受講でき、費用の補助もあります。外部研修を代表として受講した場合は全体会議の中で伝達研修を行い職員間で共有します。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ禍の為、中止している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人やご家族に入居前に生活状況や生活歴等を聞き、安心して生活出来るように話し合いの時間を設けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族やご本人に入居前に生活状況をよく聞き、安心して生活出来るように話し合いの時間を設けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前に見学して頂き、ご本人やご家族と十分に話し合い、入居後は早く生活環境に慣れて頂ける様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人の思いを尊重し出来る範囲での役割を持って頂き、共に生活している関係を築ける様に努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ禍で制限はあるが、可能な限り面会や外出を促し家族の時間を作ってもらっています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	コロナ禍の為、家族以外の面会は中止にしています。	馴染みに関する情報は入居時のアセスメントや入居後の生活の様子、会話から把握しています。入居前の住居の大家さんから手紙やカレンダーが送られてきたことがあります。年賀状を出す利用者の支援もします。家族と墓参りや外食、自宅に帰る人もいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	リビングの座席配置等、ご利用者同士が良い関係や会話が増える様に配慮しています。無理強いせず、フロアで楽しいひと時が過ごせるように体操やレクリエーションへの参加を呼びかけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご家族の相談や支援、また、他施設へは必要に応じ、状況等（ゆらりでの）を説明しています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者の希望を出来る限り取り入れていきます。困難な場合は、ご利用者本位になるように話し合いをし検討しています。	入居時の面談、日頃の会話や生活の様子で思いや意思を把握しています。意思表示が難しい人は家族の話や日頃の生活状況から職員が思いを推測します。孫の写真を見ながらや入浴中、夜勤のとき、散歩などで思いを話す人もいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの生活歴をふまえて、ケアプラン作成をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々、日常での観察をし心身の状態、異常時の早期発見に努めています。チームで共有する為、日々の申し送りやアセスメント表を利用したカンファレンス、ユニット会議等で状況の把握をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	全職員が毎月モニタリングをし、各ユニット会議、カンファレンス等で日々の状況を報告、話し合いをし、またご家族の要望を踏まえたケアプラン作成をしています。	入居時のアセスメントで暫定のケアプランを作成し、1ヶ月後に見直します。その後は、毎月のモニタリングとケアカンファレンスを経て、利用者や家族の意向、医師・看護師の意見などを採り入れ、現状に即したケアプランに都度置き換えています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎月ユニット会議等でカンファレンスを行い、ケアラボで日々の状況を共有し支援しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	毎月のカンファレンスはもちろんのこと、問題が発生した時に臨時のカンファレンスを開催し、チームとして共有し支援をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍の為、外に出での地域資源は活用していません。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	内科は隔週で金曜日に往診。夜間や休日でも対応して頂けます。歯科は毎週、火曜日に往診があります。	全ての利用者が、往診医をかかりつけ医とし月2回の訪問診療を受けています。歯科医が週1回来訪し口腔ケアをしています。訪問看護師が週1回、医療とケアに当たっています。原則、外来受診は家族対応ですが、状況により管理者が通院介助を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	24時間連絡可能です。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際、医師からの説明がある際は、可能な限り同席し情報の共有を行っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族と同意書を作成し、終末期のあり方について共有しています。また早い段階からご家族や医師、看護師とも話し合いを持ち、チームで取り組み支援しています。	契約時に重度化した場合の対応を本人と家族に説明し、同意を得ています。また終末期に当たっては「終末期における看取り介護マニュアル」に基づき、家族や医療機関と連携し、事業所での看取りが可能かどうかを判断し具体的な支援を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時のマニュアルを作成しています。AEDを設置し、全職員が取り扱いが出来る様に、事業所で研修をしています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害時のマニュアルを作成しています。ご利用者、職員参加の防災訓練を行っています。また、水、食料品の備蓄を3日分用意しています。	避難訓練は火災想定で年2回、内1回は夜間想定です。災害時の飲料水や食料品は3日分の備蓄をしています。またカセットコンロなどを非常用を兼ねて保管しています。地震対策の家具類の転倒防止や、防災頭巾を人数分備えるなどの対策を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	その人その人の尊厳に配慮して対応している。	基本的には苗字での言葉かけや呼びかけをしています。職員による不適切な対応があった場合は、その場で注意をしたり、ユニット会議で話し合いをすなど適切な対応ができるよう努めています。個人情報に関わる書類は、事務所で鍵をかけ保管しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	何事においても、ご本人の意思を尊重し、出来る限り希望にそうように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人のペースを大切にし、出来る限り希望に沿った過ごし方を支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご利用者のその日の気分で服を選んでもらっています。また、2ヶ月に1回、訪問理美容が来館され髪を切って頂けます。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事作り、配膳、片付けを職員と一緒にいき、誕生日や行事等のメニュー作りの際にも好みを活かすようにしています。	献立と食材を外部に発注し調理は専門職員が行っています。利用者は、出来る範囲で盛り付けや配膳、後片付けなどを手伝い、食に関わりを持っています。コロナ禍により、外食は難しい状況ですが、誕生日に好みのものを全員で食べたり、正月やクリスマスなどは行事食を楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	生活、水分チェック表を活用し日々の食事、水分摂取量を把握し、必要に応じ、ご利用者に促している。また、医師とも相談し栄養補助食品の提供も適宜、行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯磨きが行えるように声がけ促す。会場を必要とするご利用者は職員が行う。訪問歯科時に、歯科医や歯科衛生士からの助言を頂いている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	職員介助等、可能な限りトイレを使用して頂く。失敗したからと、すぐにオムツ類の対応を考えるのではなく、どのようにすれば上手く排泄が出来るか等、ケアカンファレンスやユニット会議で検討している。	排泄チェック表による、定時誘導を支援しています。利用者への声掛けには「行きますか」など、本人の同意を求める言い方をしよう心掛けています。排泄の自立が進んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	日々の体操や散歩等、またスムーズに排便が行えるように適宜、野菜ジュースや飲むヨーグルトの提供をしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	時間、グループを決めて入浴しているが、気が乗らない時等は、時間や日を変え臨機応変な対応を心がけている。	3人ずつ3グループに分けて、午前または午後に入浴をしています。入浴を拒否する利用者には、無理をせずシャワー浴に切り替えたり、入浴のタイミングを変えたりなどの工夫をして対応をしています。入浴剤や、季節の柚子湯や菖蒲湯などを楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	夜間眠れるように、体操や散歩等、日中の活動を促している。また、眠れない時はリビング等で職員とゆっくり話をしたり落ち着ける環境を整え支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の管理は職員が行っている。日々の様子を観察し疑問に思うことがあれば、往診時や電話で医療機関に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	食事作りや片付け、洗濯たたみや掃除等、ご利用者に応じ無理強いすることなく行って頂いている。気分転換に散歩や外気浴と日光にあたる支援を心がけている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩以外の外出はコロナ禍の為、中止にしている。	恒例行事で年2回の日帰りバス旅行を行っていましたが、コロナ禍以降は中止にしています。日常の外出は散歩を中心に行っています。施設内の畑で野菜を育てたり、草むしりをして気分転換もしています。また天気の良い日には、ウッドデッキで外気浴もしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	コロナ禍の為、人混み等、外部との接触を控えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご利用者が寂しい思いや、家族の話題が出た時は、自ら電話をかけられるご利用者は少ないが、職員が電話をかける繋いでいる。特にコロナ禍の現状で面会の変わる手段になっている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	温度や湿度、季節に合った環境を整えている。また、レクリエーションで作成した作品や写真等、居心地の良い空間作りに努力している。	キッチンと食堂兼リビングはフルオープンで一体となっており、調理の音や匂いが直接伝わり、家庭と同じ感覚で過ごすことが出来ます。リビングには季節の雛人形や利用者が書いた書初めなどを飾り居心地の良い空間になるように工夫しています。洗面台やトイレは全て車いす対応に設備し、利用者の安全に配慮をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ご利用者の意思で居室で過ごしたり、リビング等で他のご利用者や職員と会話やテレビ鑑賞等、自由に過ごして頂いている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族と相談し使い慣れた家具を持ち込む等、不安のないような環境作りに努めています。	居室はフローリングの洋室タイプと畳の和室タイプの2種類です。エアコン、照明、ベット、押し入れが備え付けとなっています。持ち込み制限は特になく、利用者は思い思いに仏壇や写真など馴染みの物を持参し、居心地よく過ごせる工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご利用者が自身の意思で自由に過ごせるように支援しています。		

事業所名	グループホームゆらり相模原
ユニット名	2階ユニット

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「ありのもの状態を受け入れ、常に利用者様、中心の生活を継続する」を共有する為に毎回の全体・各ユニット会議で話題にし、利用者様目線で暮らせるようにサポートしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍の為、中止している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	毎年、高校の福祉課の実習生を受け入れ、支援の方法等をアドバイスしているがコロナ禍の為、中止している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍で中止しているが、活動報告は地域包括支援センターに報告している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	コロナ禍で密にはないが、その都度、状況を説明している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	施設はしていません。また社内（事業所）研修を年4回開催し、常に意識を促している。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	社内（事業所）研修を年4回開催し、常に意識を促している。また、研修の際にアンケート（無記名）を実施し、結果を公表している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要に応じ関係者と電話や封書で連絡しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時、利用契約書、重要事項説明書、運営規定をすべて読み上げ説明し、同意後に署名、捺印を頂いています。また、契約後にも分からないことや不明な点は、その都度説明している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時や電話等で確認しています。年1回の外部評価でのアンケートも参考にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月、本部職員を交えた運営会議、各ユニット会議、不定期開催の全体会議を開催し、職員から意見を聞く機会を設けています。また、介護部主催の各職員とのヒヤリングで意見を聞きます。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課表を用いて、自己評価し、自身の課題設定に活かしてもらいます。また、適宜、管理者と面談を行える環境を整えています。法人では年2回の社員登用制度を開催しています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人主催の基礎研修を毎月開催しています。事業所でも個別で小研修（同じ内容を複数回に分けて）を行います。また、業務扱いで外部研修の初任者研修、実務者研修等に参加してもらっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ禍の為、中止しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人やご家族に入居前に生活状況や生活歴等を聞き、安心して生活出来るように話し合いの時間を設けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族やご本人に入居前に生活状況をよく聞き、安心して生活出来るように話し合いの時間を設けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前に見学して頂き、ご本人やご家族と十分に話し合い、入居後は早く生活環境に慣れて頂ける様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人の思いを尊重し出来る範囲での役割を持って頂き、共に生活している関係を築ける様に努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ禍で制限はあるが、可能な限り面会や外出を促し家族の時間を作ってもらっています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍の為、家族以外の面会は中止にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	リビングの座席配置等、ご利用者同士が良い関係や会話が増える様に配慮しています。無理強いせず、フロアで楽しいひと時が過ごせるように体操やレクリエーションへの参加を呼びかけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご家族の相談や支援、また、他施設へは必要に応じ、状況等（ゆらりでの）を説明しています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者の希望を出来る限り取り入れています。困難な場合は、ご利用者本位になるように離し合いをし検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの生活歴をふまえて、ケアプラン作成をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々、日常での観察をし心身の状態、異常時の早期発見に努めています。チームで共有する為、日々の申し送りやアセスメント表を利用したカンファレンス、ユニット会議等で状況の把握をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	全職員が毎月モニタリングをし、各ユニット会議、カンファレンス等で日々の状況を報告、話し合いをし、またご家族の要望を踏まえたケアプラン作成をしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎月ユニット会議等でカンファレンスを行い、ケアラボで日々の状況を共有し支援しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	毎月のカンファレンスは勿論のこと、問題が発生した時に臨時のカンファレンスを開催し、チームとして共有し支援をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍の為、外に出る地域資源は活用していません。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	内科は隔週で金曜日に往診。夜間や休日でも対応して頂けます。歯科は毎週、火曜日に往診があります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	24時間連絡可能です。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際、医師からの説明がある際は、可能な限り同席し情報の共有を行っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族と同意書を作成し、終末期のあり方について共有しています。また早い段階からご家族や医師、看護師とも話し合いを持ち、チームで取り組み支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時のマニュアルを作成しています。AEDを設置し、全職員が取り扱いが出来る様に、事業所で研修をしています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害時のマニュアルを作成しています。ご利用者、職員参加の防災訓練を行っています。また、水、食料品の備蓄を3日分用意しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	その人その人の尊厳に配慮して対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	何事においても、ご本人の意思を尊重し、出来る限り希望にそうように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人のペースを大切にし、出来る限り希望に沿って過ごし方を支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご利用者のその日の気分で服を選んでもらっています。また、2ヶ月に1回、訪問理美容が来館し、髪を切ってもらっています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事作り、配膳、片付けを職員と一緒にに行い、誕生日や行事等のメニュー作りの際にも好みを活かすようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	生活、水分チェック表を活用し日々の食事、水分摂取量を把握し、必要に応じ、ご利用者に促している。また、医師とも相談し栄養補助食品の提供も適宜、行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯磨きが行えるように声がけ促す。介助を必要とするご利用者は職員が行う。訪問歯科時に、歯科医や歯科衛生士からの助言を頂いている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	職員介助等、可能な限りトイレを使用して頂く。失敗したからと、すぐにオムツ類の対応を考えるのではなく、どのようにすれば上手く排泄が出来るか等、カンファレンスやユニット会議で検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	日々の体操や散歩等、またスムーズに排便が行えるように適宜、野菜ジュースや飲むヨーグルトの提供をしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	時間、グループを決めて入浴しているが、気が乗らない時等は、時間や日を変え臨機応変な対応を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	夜間眠れるように、体操や散歩等、日中の活動を促している。また、眠れない時はリビング等で職員とゆっくり話をしたり落ち着ける環境を整え支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の管理は職員が行っている。日々の様子を観察し疑問に思うことがあれば、往診時や電話で医療機関に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	食事作りや片付け、洗濯たたみや清掃等、ご利用者に応じ無理強いすることなく行って頂いている。気分転換に散歩や外気浴と日光にあたる支援を心がけている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩以外の外出はコロナ禍の為、中止にしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	コロナ禍の為、人混み等、外部との接触を控えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご利用者が寂しい思いや、家族の話題が出て時は、自ら電話をかけられるご利用者は少ないが、職員が電話をかける繋いでいる。特にコロナ禍の現状で面会の変わる手段になっている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	温度や湿度、季節に合った環境を整えている。また、レクリエーションで作成した作品や写真等、居心地の良い空間作りに努力している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ご利用者の意思で居室で過ごしたり、リビング等で他のご利用者や職員と会話やテレビ鑑賞等、自由に過ごして頂いている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族と相談し使い慣れた家具を持ち込む等、不安のないような環境作りに努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご利用者が自身の意思で自由に過ごせるように支援しています。		

2021年度

事業所名 グループホームゆらり相模原
作成日： 2022年 5月 3日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4・19	運営推進会議の開催	定期開催（2ヶ月に1回）。	ご家族、自治会長、地域包括支援センターに連絡、参加を呼びかける。	12ヶ月
2	7.12・13	職員のストレス軽減	ストレスチェックを活用し、高ストレス者の軽減。	ストレスチェックの活用（年2回）。	12ヶ月
3	28	共同生活の為、ご利用者の行動を、制限してしまうことがある。	ゆらり相模原に入居する前の生活を、出来る限り継続して行く。	毎月のユニット会議等を活用し、ご利用者の思い、生活歴をチームで把握する。	12ヶ月
4	48	ご利用者の役割が限定している。	日々、ご利用者一人一人の強みを意識し、出来ないだろうとの思いを払拭して行く。	毎月のユニット会議等を活用し、ご利用者の思い、生活歴をチームで把握する。	12ヶ月
5	1	理念（会社）の把握	職員皆が会社の理念「共に認め、共に喜ぶ！」を把握する。	タイムレコーダー前、各フロア事務所や休憩室に理念の掲示。	1ヶ月